

川柳 さいたま



アルストロメリア

川柳知らばよき世に

願法みつる

世に「論語読みの論語知らず」という言葉があり、道徳観念の激変した今、万人の耳には痛いことだろう。これに倣って「ケインズ読みのケインズ知らず」とも言い、地に足のつかない経済学者や政策担当者が揶揄されるのか。金が全ての世の中ともなれば、致し方ない流れと言うべきなのだろうか。

ところで、世が移りIT万能の人間関係や社会構造になつてゆくとき、現代川柳の型や質が転変してゆくのも、摂理なのではなからうか。川柳の語を冠する言葉遊びの蔓延も、日本人の文芸意識の変化である。江戸時代に前句付けの形態が変遷したことも相通じる。

伝統川柳を頑なに物する方々の矜持は、誠に尊いものとして認めることにやぶさかではない。一方、川柳の本質は不変であると信じつつ、その概念が変わりつつあることを理解する必要があると思う。

そして、明治中期以降に新川柳が興つたように、いつの日か、IT社会に適応した新新川柳が彷彿として歴史の上に姿を現すかも知れない。

こんな夢を語る川柳人は、地に足のつかない「川柳読みの川柳知らず」と云われるかもしれない。

九月号 目次

堅太郎句抄(二十)	願法みつる	表紙	2
巻頭言 川柳知らずということ			
彩玉集 同人吟			
さいたまの柳人(37) 興津幸代			
柳人交流「武智三成さん」	松田 重信		6
全日本川柳青森大会入賞句			
雑詠	願法みつる選		10
映像川柳	石田 正則		10
七七句	松田重信選		18
拝啓 川柳様 其の九	大塚やまぶき		22
初歩添削講座はみ出し編	加藤孤太郎		25
交替鑑賞	小松 召子		26
初歩添削講座「虚実」雑詠	加藤孤太郎		28
題詠 「漂う」 國嶋 武選			32
「茶」 中島 一甫選			
「都合」 石井 昇選			
さいたま八月句会			
古丘の世界	文・今村 寿子		34
大会等ご案内			
編集さろん			
句会案内			
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	表紙	表紙	4 3

平成25年

9 月号 (No.646)

日川協加盟